

使用報告：凍瘡に人參養栄湯

貝瀬皮膚科(新潟県) 貝瀬 明

病名治療的に人參養栄湯を末梢循環不全である凍瘡に使用した症例を供覧。多くの症例が改善、患者満足度も高い。

Keywords 人參養栄湯、凍瘡、病名治療

はじめに

人參養栄湯は、補剤であり、保険適応上、各社製品の効能・効果に、「手足の冷え」その他がある。ありふれた冬の凍瘡に、病名治療的に用いた症例供覧。

症例1 92歳 男性

種々皮膚疾患で当院通院中。凍瘡2010年1月初診。糖尿病。初診当時、クラシエ人參養栄湯エキス細粒(以下人參養栄湯)7.5g/日、トコフェロールニコチン酸エステル(以下VE製剤)100mg×3C/日、外用ヘパリン類似物質油性Cr有効。両下腿にシャンバーグ病。その後も要時、凍瘡で当院受診。

2022年3月11日、再診。人參養栄湯 7.5g/日、VE製剤 200mg×2C/日、外用アルプロスタジル アルファデクス(以下PGE1)軟膏。自覚症状はツンツンと表現。同年4月2日、自覚症状消失、左第2、3、4趾腹の鱗屑消失、第3趾腹小びらん、紅斑消失(図1)。

図1 症例1



2022年3月11日



同年4月2日再来時
第2、3、4趾腹鱗屑消失、
小びらん、紅斑消失。

症例2 78歳 女性

凍瘡は幼少時以来ない。母に凍瘡。高血圧症等にクロビドグレル錠、カンデサルタン錠、シロスタゾール錠等。脳梗塞既往。

2022年3月31日、右第3趾を爪切り後、腫脹。痛痒さのため、レボフロキサシン500mgを5日間投与し有効。同年4月8日、凍瘡様紅斑腫脹が残るため人參養栄湯 7.5g/日。約2週後の再来時、右第3趾の紅斑腫脹、明瞭に軽快(図2)。

症例3 67歳 女性

凍瘡は、当院初診2009年1月。幼少時、手に凍瘡。初診時、人參養栄湯7.5g/日、VE製剤100mg×3C/日、外用ヘパリン類似物質油性Cr、有効。その後も要時、凍瘡で当院受診。

2021年12月21日、当季初診。10月頃から凍瘡症状。痒みを伴わぬ疼痛。人參養栄湯 7.5g/日、VE製剤 200mg×2C/日、外用PGE1軟膏。2022年2月14日再来。疼痛は軽微、左第3、4趾鱗屑消失、第4趾紫色調改善(図3：次頁参照)。

図2 症例2



2022年4月8日



同年4月20日
第3趾紅斑腫脹、明瞭に軽快。

図3 症例3



症例4 68歳 男性

2021年12月4日初診。幼少時に凍瘡、久々に発症。建設業に従事、手が濡れることが多い。メコバラミン、フロセミド、シロドシンOD、エソメプラゾール、シルニジピン、スピロノラクトン、サクビトリルバルサルタン。人參養榮湯 7.5g/日、VE製剤 200mg×2C/日、外用ヘパリン類似物質油性Cr。同年12月18日再来時、右第4趾腫脹、紫色調変化、明らかに改善(図4)。

しかし、本剤内服後、下腿浮腫。かかりつけ内科から、人參養榮湯に含有する甘草アルドステロン様作用の可能性に鑑み、本剤中止を勧奨される。安全のため、以後内服VE製剤のみ。

症例5 92歳 男性

2010年から種々皮膚疾患で当院通院中。

凍瘡2022年1月4日初診。しもやけ冷え性既往なし。家族歴不明。近医からモビコール、ミヤBM。人參養榮湯 7.5g/日、VE製剤 200mg×2C/日、外用PGE1軟膏。1月17日再来時、左第2趾尖の皮膚潰瘍縮小、左母趾腹皮下出血、ほぼ消退。1月31日再来時、皮膚潰瘍さらに縮小、鱗屑も減じ、ほぼ正常皮膚(図5A)。耳輪部の皮膚潰瘍、上皮化(図5B)。1月22日、通院中の病院精神科から認知症状に、抑肝散を新規処方、以後人參養榮湯と併用。

症例6 57歳 女性

種々皮膚疾患で当院通院中。凍瘡2014年1月初診。疼痛のほか、シビレ感、ピリピリ感と表現することも。幼少時

図4 症例4



図5A 症例5



図5B 症例5



凍瘡なし。母に凍瘡。その後も要時、当院受診。難治例で、早くも9月に発症した年度も。リマプロスト アルファデクス(以下PGE1)錠15 μ g/日投与したことも。毎年、秋から冬に凍瘡発症、2015年からPGE1錠とヘパリン類似物質

油性Crで治療。

2022年1月31日、当季初診。脳動脈狭窄(詳細不明)に、近医内科から2020年、シロスタゾール錠。人參養栄湯 7.5g/日、VE製剤 200mg×2C/日、外用ヘパリン類似物質油性Cr。履物の圧迫による両母趾尖の線状陥凹。外用を2週後PGE1軟膏に変更、4週後、紫色調変化は明らかに改善(図6)。

図6 症例6



図7 症例7



図8 症例8



症例7 71歳 男性

2020年、凍瘡に対し、内科から四物湯。当初有効、のち無効に。

2021年11月9日初診。幼少時凍瘡なし。3年前凍瘡を初経験。心房細動、大動脈弁狭窄症で弁置換術の既往。脊椎すべり症、脊柱管狭窄症合併。ワルファリン、メキサゾラム、肩の痛み、腰痛に病院整形外科からデュロキセチン。人參養栄湯 7.5g/日、VE製剤 200mg×2C/日、外用ヘパリン類似物質油性Cr。

11月24日再来時、左母趾の自覚症状が残るため、外用をPGE1軟膏に変更。

2021年12月13日再来、第1回写真撮影。

2022年2月24日再来、左第4趾皮膚潰瘍上皮化、右第1、3、4趾腹、左第1、2趾腹紫斑消失(図7)。

症例8 18歳 女性

2021年12月28日初診。幼少時から、初冬に凍瘡。治療歴なし。基礎疾患なし。人參養栄湯 7.5g/日、VE製剤 200mg×2C/日、外用ヘパリン類似物質油性Cr。2022年1月18日再来時、右第1、3、4趾、左第5趾腫脹軽減(図8)。

症例4以外について人參養栄湯による有害事象は認められなかった。

考 察

随証治療を期すべきことは論を待たない¹⁾。一方、中医学・和漢を尊重しつつ、病名治療的に漢方方剤を処方し、きわめて良好な結果が得られる症例が多く存在する。

新潟県の中核、新潟大学皮膚科で、筆者は主に1990年代に研鑽した。当時、同科では伝統的に凍瘡患者に、人參養栄湯を投与してきた経緯がある。筆者も、卒後35年を経てなお、凍瘡治療に人參養栄湯を第一選択とする。

保険適応上の効能・効果、「手足の冷え」を持つ本剤を末梢循環不全である凍瘡に応用すると、多くの症例が改善し、患者満足度も高い。

【参考文献】

- 1) 花輪壽彦 ほか: 病名治療と随証治療. 日東医誌 45: 1-36, 1994